

Kagoshima University International Center for Island Studies

島嶼研だより

No.88

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

2024 年 10 月

主な記事

国際島嶼教育研究センター長就任にあたって（山本雅史）	p1
学生奮闘記「徳之島での実習を通して学んだこと」（箕輪夏里）	p3
フィールドこぼれ話「島人の暮らしとオカヤドカリ」（土井 航）	p7
連載 世界島めぐり 第十一回 「ビティレブ島 フィジー」（河合 溪）	p9

国際島嶼教育研究センター長就任にあたって

国際島嶼教育研究センター長
山本雅史

本年度 4 月から国際島嶼教育研究センター（島嶼研）長に就任した農学部の中尾雅史です。島嶼研の前身の多島圏研究センターでは学部教員がセンター長となることも多かったようですが、平成 22 年 4 月の島嶼研への改組以降は島嶼研専任教員以外の初めてのセンター長となります。従来の、島嶼研の内容を熟知している専任教員のセンター長とは異なり、島嶼研のことを勉強しながらの管理運営となりますので、いろいろとご迷惑をおかけすることとなるものと思いますが、よろしくお願いいたします。

島嶼研は昭和 56 年に南方海域研究センター（南海研）として誕生し、その後昭和 63 年から南太平洋海域研究センター、平成 12 年から多島圏研究センターを経て、平成 22 年に現在の形に改組・スタートした 40 年以上の長い歴史のある研究センターです。発足当初の南海研のセンター長は中尾佐助先生です。先生の御

著書である『栽培植物と農耕の起源』は大学時代に、『秘境ブータン』も再刊されたものを拝読いたしました。これらは今でも書棚にあります。末席とはいえ、中尾先生に連なるポジションにいると考えることで身の引き締まる思いです。全く予想しなかったセンター長就任ですが、歴代のセンター長のご活躍に少しでも近づきたいと考えています。

今年度、島嶼研は 4 名の専任教員（定員）、1 名の特任教員および 2 名の特任研究員で構成されています。これらメンバーに加え、鹿児島大学に所属する約 60 名の兼務教員や 10 名の客員研究と共同して研究活動を行なっています。また、現地の方々とも連携を深め、教育研究活動を実施していることは言うまでもありません。非常に小さな組織です。活動には多数の方の協力や支援が必要です。この点もよろしくお願いいたします。

島嶼研の研究成果（論文）集が『南太平洋研

(2) 島嶼研だより No.88

究』(South Pacific Studies)であることが示しますように、現在も海外を含めた広範な地域での教育研究活動を展開していますが、近年、特に奄美群島における活動強化を目指しています。そのため、平成 27 年に奄美大島に奄美分室を開設しました。奄美分室の活動も現地に定着して参りました。現在、奄美分室には専任教員 1 名と特任教員 2 名が常駐し、地域に根差した教育研究を推進しています。また、奄美分室開設 10 周年を記念して、令和 7 年 2 月には奄美大島でのシンポジウムを予定しています。多くのご参加をお待ちしています。

現在、奄美群島における主な活動として、鹿児島大学の全学的プロジェクトミッション実現分「奄美群島を中心とした『生物と文化の多様性保全』と『地域創生』の革新的融合モデル」を令和 4 年度から実施しています。今年度は 3 年目ですので、成果を挙げる時期に入りました。島嶼研では水陸領域にわたる生物多様性のモニタリングを中心に、文化、社会、産業、健康などの研究も進めて行きます。モニタリングについては、本プロジェクトで実施体制を構築することで、これからの長年月の調査が可能となり、気候変動が地球環境に及ぼす影響などを長期的に研究することができます。

当然、奄美群島だけでなく、南太平洋域における教育研究も進めています。コロナウイルス流行で中断していたミクロネシアにおける海外共同調査も今年度から再開しました。また、昨年度まで日本学術振興会のアジア研究拠点形成事業でフィリピン、マレーシア、インドネシアの大学と連携して研究を進めてきました。今年度はそれに代わる事業にも申請予定です。

このように、奄美群島など我が国の島嶼域と南太平洋域など海外の島嶼域における教育研

究のバランスをとりつつ、島嶼域における教育研究の拠点機能の一層の進展を図らなければいけないと考えています。微力ながら少しでもそれらに貢献できれば幸いです。

個人的には、奄美群島を中心とした島嶼域は在来カンキツ研究のフィールドでした。25 年間、毎年のように島々で調査を続けてきましたが、ほとんどカンキツだけを考えてきました。これからはセンター長として、自分の研究分野以外の幅広い領域についても、島の教育研究に関わることができることを楽しみにしています。



ミクロネシア調査にて



シンポジウムで報告する山本センター長